響かせようトットリズム 45

口腔ケアの意識改革

歯っぴいほっとスマイル

鳥取市、加納千恵美代表

健康な歯を保つため、保育士の立場で子どもたちに口腔（こうくう）管理の大切さを伝える活動に取り組む。使うのは、歯科医の監修の下に考案した「エプロンシアター」と呼ばれる特製エプロン。物語を通して、「治療」から「予防」重視の意識改革を呼び掛ける。

代表の加納千恵美さん（54）は夫が営む歯科医院で託児に取り組む保育士。子どもが虫歯の治療で泣く姿を長年目の当たりにし、「お口は命の入り口」をテーマにオリジナルのエプロンシアターを制作した。

自ら考案した特製エプロンを使い、子どもや高齢者に口腔管理の大切さを伝える加納代表＝鳥取市内

絵本のようにめくるエプロンの物語は、赤ちゃんが母親の胎内にいるときから永久歯が生えるまで。高齢者向けには入れ歯の場面も加え、全世代に対応する。

２０１８年２月から鳥取県東部の幼保育園や小学校、老人クラブなどで講話活動を展開し、虫歯になる仕組みや親子の仕上げ磨き、入れ歯の管理法などを伝える。ポケットから飛び出す虫歯菌に子どもたちはくぎ付けになり「口の手入れの意識改革につながっている」と実感。鳥取市内中心での活動を県内全域に広めたい考えで、ボランティアの演じ手を会員制交流サイト（ＳＮＳ）で募る計画だ。

文部科学省による18年度の調査速報値では、虫歯（処置完了者含む）のある県内の児童生徒の割合は全国平均を上回った17年度に比べ、大幅に改善した。家庭や学校での切れ目ない歯科衛生指導が大切で、加納代表は「おいしく食べ続けるために虫歯なし、歯周病なしの鳥取県民を目指し、活動を続けたい」と話す。